



津久井 清 の

2019年10~11月号 116号

共育だより 立憲民主党

発行：津久井 清と共育の会

〒273-0136 鎌ヶ谷市佐津間 2-6
津久井自宅 ☎047(444)5262 [FAX 兼用]
e-mail : ktsukui@air.linkclub.or.jp

早稲田大学卒業後、鎌中部小、鎌四中・鎌中の社会科教師として21年間勤めました。市議としては、市民派議員として「教育充実を」「住民と共に住環境改善の戦い」などに力を入れています。これまでに議会報告「共育だより」を116号発行。議会終了後には、市議会報告会を開き、市民とのツーウェイ（相互交流）を進めています。

9月市議会で津久井議員は、「自転車の歩道通行と歩行者の安全性」と「教師が子供の教育指導に集中できるための働き方改革」について一般質問を行いました(9/26質問日)。また、台風15号による鎌ヶ谷市内の被害状況については本紙裏面で報告しております。ご一読頂ければ幸いです。

《自転車と歩行者の安全通行問題》

《教職員の働き方改革は進んでいるのか》

① 歩道を通る自転車……

『狭い歩道を通る自転車が多く、安心して歩道を歩けません。どうにかありませんか？』(市民相談より)

② 歩道を通ってよい自転車とは何か？

道路交通法で自転車の歩道走行が認められているのは「自転車走行可の標識がある場合、13歳以下の子供・70歳以上の高齢者、身体の不自由な人」のみです。いずれも「歩道は歩行者優先で、自転車は車道寄りを徐行する」と定められています。

③ 鎌ヶ谷市内における自転車事故の状況は？

市内の自転車事故は、2014年147件から2018年56件と減少傾向にあります。しかし、交通事故全体に占める自転車事故の割合は最近5年間で約30%、近隣6市中では2番目に多い状況です。

④ 自転車レーンが少ない、さらに拡大が必要

道路交通法により市内で自転車通行が認められている歩道は、全体のわずか10%とのこと。津久井議員は「自転車レーンのさらなる拡大」を求めました。また、自転車レーンの設定が困難な場合は、車道側に水色塗装レーン(自転車専用通行帯)の整備を求めました。後者は実現性が高く、前向きな答弁が得られました。

⑤ ハード(道路改善)とソフト(歩行者配慮)で前進へ！

「鎌ヶ谷市自転車ネットワーク計画」がスタートします。この中で「自転車専用通行帯」などの道路整備を充実させる必要があります。また「歩道は歩行者優先であり、歩行者に配慮した運転を」と市民の皆様や小中学校の子供たちが心身ともに理解できるよう、市担当部局が取り組んでもらうことを強く要望しました。

① 文科省大臣が「教員の働き方改革は待ったなし」と訴える

本年3月、柴山文科相は「保護者・地域のみなさまへ」と題して、「学校教員の働き方改革は待ったなし……」とし、「先生は授業準備など子供と接する仕事に集中できるよう勤務時間を軽減すべき」と訴えました。

② 教職はブラック職場？ 先生応募者が急減

文科省は、週80時間の過労死ラインを超えている教員が中学校で約60%、小学校で約30%台であるとの調査結果を発表しました。また教員志願者は年々減少しており、2019年度は小学校で定員の2.8倍、中学校で同5.5倍まで下がっています。全国約6割の教育委員会からは「多忙であるなど教職員へのイメージが低下し、受験者数が減っている」と報告されています。「教育は人なり」。今、教職の過重労働改善が迫られています。

③ 教師の働く内容の精選化促進を

「学校への電話かけは午後6時頃までに(緊急時は市⇒学校へ)」「家庭訪問は希望する家庭中心へ」「給食費をはじめ学校集金は先生⇒行政へ」「中学の部活動は週1回土日のどちらかを休む」などの精選化が進んでおり、津久井議員も自己の体験を生かして質問しました。市教委からは促進化の具体的答弁がありました。

④ 夜間パトロールも教員以外に代替を

市内A中学では年間18回もの夜間パトロール(午後7時~9時頃)を一教員が担当していました。文科省は「夜間パトロールは教員の本務外。教員以外への代替を」と提言しています。津久井議員の質問に対し、市教委から「教師の担当の削減に向けて見直しをしていきます」との答弁がありました。

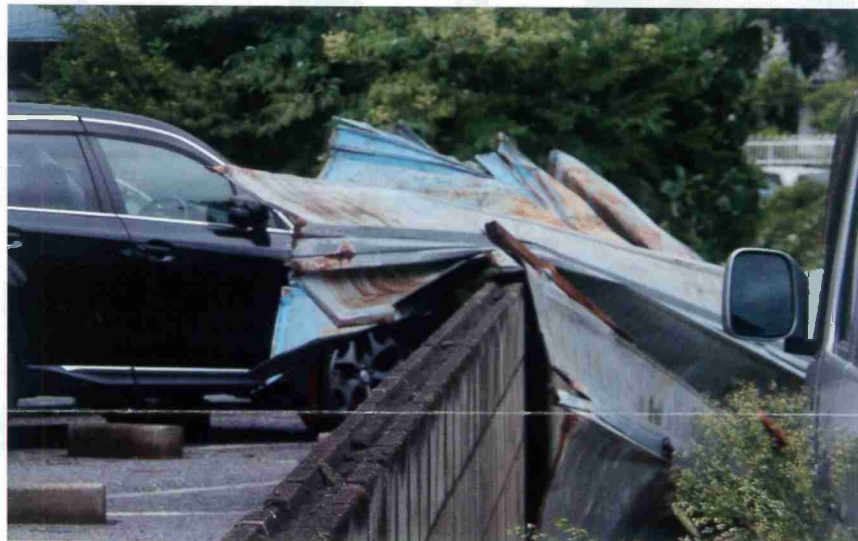
教師が子供たちの教育に全力投球できる環境整備こそが「教員の働き方改革」

今までは「子供たちのために～」として過労死ラインを大幅に超え、夜中まで働くことが「教師の美德」とされていたかと思います。しかし、何でも仕事にしてしまえば、本来子供たちと「ふれあい、教えること」が、ないがしろになってしまいます。今ここで、教師本来の仕事(教育)に立ち返ることが求められていると思いました。

鎌ヶ谷市 災害復旧費に7,000万円を投入！

9月8～9日、台風15号は秒速50級の暴風で千葉県を襲い約60数万戸の停電、2万戸を超える家屋損壊を発生させました。鎌ヶ谷市内でも9日未明から被害が発生、住民の方々から津久井議員に「停電で冷蔵庫が使えない(東中沢)」「大きな樹が倒れ道路が不通(中沢)」等々の電話が殺到、市内では最大時で4,400戸が停電しました①。市担当部局に全力を挙げての復旧取り組みを要請、当日午後7時頃にはほぼ市内の停電が解消しました。また、市の特産品の梨は園によっては7割もの落果が報告されています②。

台風15号による鎌ヶ谷市内の被害は右別項の如くです。早速、市は予備費等から約7,000万円を投入し、災害復旧



① 吹き飛ばされて落下した屋根で住宅や車が破損。

に当たっています。また、今回の台風15号襲来において安倍内閣の「災害時に組閣優先」、森田知事の「初動対応の遅れ」などが指摘されており、今後の検証～再発防止が必要と思われま



② 梨園では3～7割の梨が落果し、大きな被害。

《台風15号による鎌ヶ谷市内の被害状況》

(市安全対策課 9月20日現在)

- ◇床上浸水6戸・床下浸水21戸 ◇倒木66件 ◇建物等損壊82件 ◇公園等の倒木40件 ◇小中学校校舎の被害26件
- ◇道路設備損壊39件など。
- 鎌ヶ谷市職員の他市への応援＝君津市へ2人、館山市へ6人、木更津市へ土のう・ブルーシート・電池等を送る。
- 市会議員・市幹部職員など＝被災地に見舞金を送る。

投稿

「児童虐待の根底にあるもの」

齊藤 明 (東中沢一丁目)

津久井議員の6月市議会報告会が、7月28日にきらり会館3階会議室で26名の出席者を迎え、市民とのツーウェイ方式で開催されました。今回の主な内容は「近年急増している児童虐待の実態と鎌ヶ谷市における対応」でした。データによれば2017年の虐待相談件数は、全国133,778件(5年前比で81%増)、鎌ヶ谷市は192件(同64%増)と急増しています。津久井議員からは、市が現在進めている対策に対して「担当職員の増員」「総合的な緊急対策の必要性」を求める質問を行い、市から一定の前進的な回答を得られたとの説明がありました。出席者からは活発な意見が交わされ、終了予定時刻を30分過ぎても問題分析や体験談が止まら

ないほど熱を帯びました。児童虐待問題に詳しい天童荒太氏の「上流でダムが決壊しつつあるのに下流で土のうを積み上げているに等しい」という比喻は、対症療法的対策では子供を守る根本的解決にはならないことを指摘しています。

現政権になってからは、特に大手企業の増益擁護政策が優先され、非正規雇用者が4割におよび、終身雇用廃止等によって人件費コストが抑えられ続けています。苦しい生活を余儀なくされ将来展望の持てない人々は、刹那的・自己本位的防衛に追い込まれ、社会は共助精神や寛容さやセーフティーネットを広げる余裕すら失いつつあることが、この問題の根底にあると重く受け止めました。

津久井議員の市議会報告会
 《日時》 11月10日(日) 13時30分～
 《場所》 きらり会館3階会議室にて
 皆さま、お気軽にご参加ください。
 問い合わせ先 ☎444-5262 津久井

第11回鎌ヶ谷住宅デー
 《日時》 10月27日(日) 11時～14時
 《場所》 東武鎌ヶ谷駅東口
 住宅相談、包丁・ハサミ研ぎ(300円～)
 問い合わせ先 ☎412-9700(柴崎)

弁護士無料法律相談
 《日時》 10月26日(土)・11月23日(土)
 13時～
 《場所》 トライ事務所(事前予約制)
 問い合わせ先 ☎444-5262 津久井